



CEO Remark

竹内 康雄

過去3年半の実績

FY2019-FY2022 Transform Olympus & 経営戦略の発表と実行

- ✓ 次の100年に向けて経営基盤を強化
- ✓ 2023年3月期必達を掲げた戦略目標に向けて、着実な進捗



世界をリードするメドテックカンパニーへと成長し、革新的な価値によって患者様、医療従事者、医療機関、医療経済にベネフィットをもたらし、世界の人々の健康に貢献する



年率 **5-6%** の売上高成長率を持続



>20% の営業利益率* を目指す

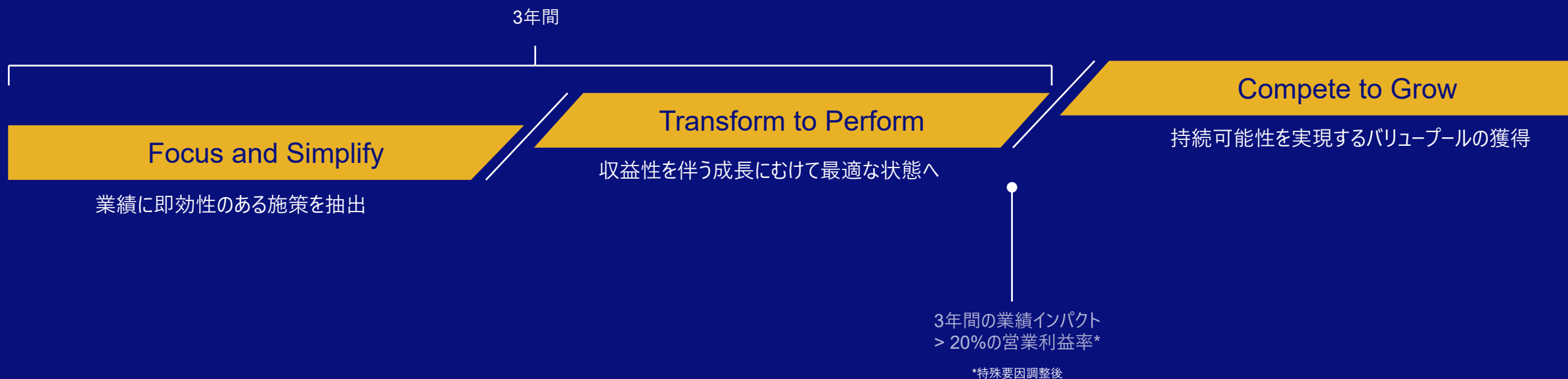


当社が注力する治療領域において
リーディングポジションを獲得
(消化器科、泌尿器科、呼吸器科)

成長を加速させるフェーズへ

FY2023以降 グローバル・メドテックとして成長を加速させる正念場を迎える 戦略策定と実行に従来とは異なる経営能力が必要になる

2023年3月期は最終的なゴールではなく、経営戦略における一つのマイルストーン



FY24組織体制：代表権をもつ会長とCEOを含む、10名の執行役体制

Board of Directors

取締役代表執行役





New CEO

Stefan Kaufmann



2023年3月期 第2四半期 連結決算概況と通期業績見通し

免責事項

- 本資料のうち、業績見通しなどは、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定な要素および今後の事業運営や内外の状況変化などによる変動可能性に照らし、実際の業績などが目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報および資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料内に、医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれていますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。また、あくまでも当社の技術開発の一例としてご紹介するものであり、将来の販売をお約束するものではありません。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

開示の変更点

科学事業（イベント）の譲渡に伴い、第2四半期より科学事業を非継続事業として開示（国際会計基準）



- 連結業績では、非継続事業からの当期利益（損失）を開示
- 参考資料として、非継続事業（科学事業）の業績を開示

*2023年3月期第2四半期連結会計期間において、当社は、Bain Capital Private Equity, LPが投資助言を行う投資ファンドが間接的に株式を保有する特別目的会社である株式会社BCJ-66との間で科学事業の譲渡に関する株式譲渡契約を締結しました。これに伴い、当第2四半期連結会計期間より、科学事業に関する損益を非継続事業に分類するとともに、前第2四半期連結累計期間についても同様の形で再表示しています。なお、売上高、営業利益、税引前利益、継続事業からの四半期利益については、非継続事業を除いた継続事業の金額を、四半期利益及び親会社の所有者に帰属する四半期利益については、継続事業及び非継続事業を合算した数値を表示しています。また、2023年1月に全株式の譲渡が完了する前提での記載となっています

第2四半期及び累計実績

- ☑ **先行き不透明な環境下でも引き続き複数のリスクに対策を講じ、増収増益を達成**
 - 売上高：連結で+16%成長。医療分野の売上高は2Q及び累計において過去最高の売上高
内視鏡・治療機器事業ともに2桁成長を達成
 - 営業利益：2Q及び累計の営業利益は、額・率ともに過去最高*

通期業績見通し

- ☑ **前回見通しから、為替前提を見直し、売上高を上方修正。原材料高の影響、費用等を追加で織り込むも、経営戦略で掲げた調整後営業利益率20%超を見込む**
 - 売上高・営業利益：前期比19%増の8,920億円を見込む。営業利益は、額・率ともに過去最高を見込む
 - 当期利益**：科学事業の譲渡に伴う譲渡益を計上し過去最高の3,870億円、EPSは前期比238%増の305円となる見通し
 - 株主還元：自己株式の取得約500億円を見込む

*四半期報告書の開示を開始した2009年3月期から **親会社の所有者に帰属する当期利益。2016年3月期までは日本基準、2017年3月期以降はIFRS。2023年1月に非継続事業（イベント）の全株式を譲渡する予定のため、非継続事業の2023年3月期最新見通しは、第3四半期までの数値になります

01

**2023年3月期 第2四半期
連結業績および事業概況**

2023年3月期 第2四半期実績 ①連結業績概況

- 1 売上高：連結で+16%成長。医療分野の売上高は2Q及び累計において過去最高の売上高。内視鏡・治療機器事業ともに2桁成長を達成
- 2 営業利益：2Q及び累計の営業利益は、額・率ともに過去最高*

第2四半期累計実績（4-9月）

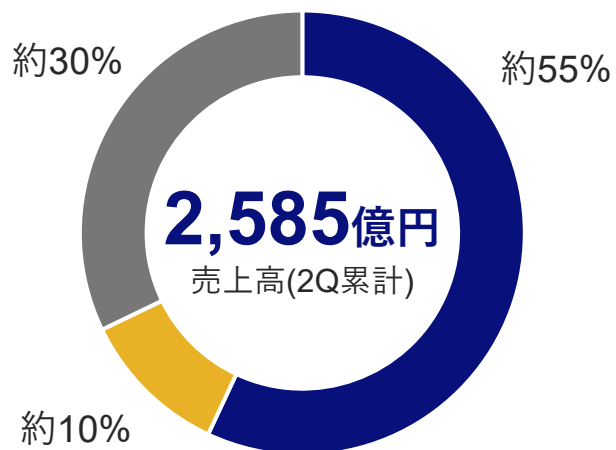
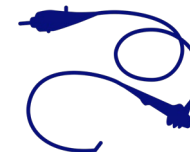
第2四半期実績（7-9月）

		第2四半期累計実績（4-9月）			
		FY2022	FY2023	FY2022比	為替除き FY2022比
(単位：億円)					
** 継続事業	売上高	3,601	1 4,171	+16%	+2%
	売上総利益 (売上総利益率)	2,414 (67.0%)	2,775 (66.5%)	+15%	▲1%
	販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)	1,689 (46.9%)	1,985 (47.6%)	+18%	+7%
	その他の収益および費用など	▲18	146	-	-
	営業利益 (営業利益率)	707 (19.6%)	2 936 (22.4%)	+32%	+3%
	調整後営業利益 (調整後営業利益率)	728 (20.2%)	794 (19.0%)	+9%	
	税引前利益 (税引前利益率)	684 (19.0%)	893 (21.4%)	+31%	
	継続事業からの当期利益 (継続事業からの当期利益率)	584 (16.2%)	695 (16.7%)	+19%	
	非継続事業からの当期利益 (損失)	41	▲26	▲67億円	
	当期利益	625	669	+7%	
親会社の所有者に帰属する当期利益	624	668	+7%		
EPS	49円	53円			

		第2四半期実績（7-9月）			
		FY2022	FY2023	FY2022比	為替除き FY2022比
(単位：億円)					
	売上高	1,933	1 2,248	+16%	+1%
	売上総利益 (売上総利益率)	1,312 (67.9%)	1,518 (67.5%)	+16%	▲3%
	販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)	844 (43.7%)	1,025 (45.6%)	+21%	+8%
	その他の収益および費用など	▲21	▲2	-	-
	営業利益 (営業利益率)	447 (23.1%)	2 491 (21.8%)	+10%	▲20%
	調整後営業利益 (調整後営業利益率)	472 (24.4%)	496 (22.1%)	+5%	
	税引前利益 (税引前利益率)	430 (22.2%)	473 (21.0%)	+10%	
	継続事業からの当期利益 (継続事業からの当期利益率)	401 (20.7%)	416 (18.5%)	+4%	
	非継続事業からの当期利益 (損失)	37	4	▲89%	
	当期利益	438	420	▲4%	
	親会社の所有者に帰属する当期利益	437	420	▲4%	
	EPS	-	-		

*四半期報告書の開示を開始した2009年3月期から
**「売上高」から「継続事業からの当期利益」までの数値は、継続事業の数値を記載

2023年3月期 第2四半期実績 ②内視鏡事業



(単位: 億円)	FY2022		FY2023	
	2Q	2Q累計	2Q	2Q累計
売上高	1,206	2,206	1,416	2,585
営業利益	390	616	441	689
その他の損益*	▲10	▲31	▲2	▲14
営業利益率 (為替影響調整後)	32.3%	27.9%	31.1% (27.3%)	26.7% (23.1%)
調整後営業利益率	33.1%	29.4%	31.3%	27.2%

*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

FY2023 vs FY2022 (7-9月)
売上高成長率

円ベース
為替込み

為替影響
調整後

■ 消化器内視鏡

17%

- 全ての地域でプラス成長。「EVIS X1」シリーズの販売が堅調に推移していることを主要因に増収。また、円安効果が大きい北米も増収に貢献

1%

■ 外科内視鏡

4%

- 外科内視鏡システム「VISERA ELITE II」の販売が堅調に推移。また、円安効果が大きい北米も増収に貢献。為替影響調整後では、欧州において半導体等の部品供給不足により納品の長期化が発生したこと、および前期2Qが好調だった中国で反動減もあり減収

▲10%

■ 医療サービス

25%

- 保守サービスを含む既存のサービス契約の安定的な売上や、新規契約の増加もあり、中国をはじめ全ての地域でプラス成長

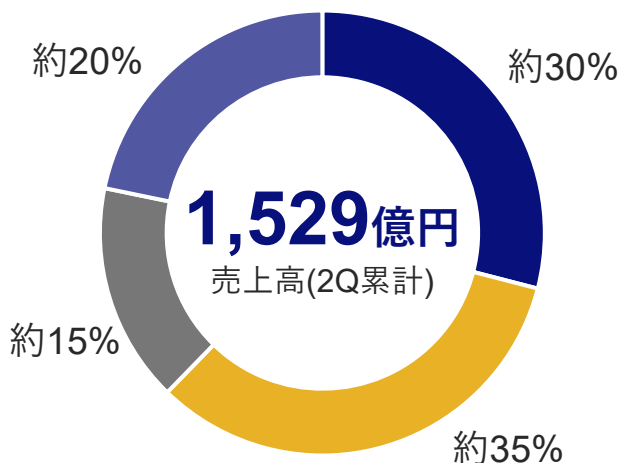
8%

合計

17%

1%

2023年3月期 第2四半期実績 ③治療機器事業



(単位: 億円)	FY2022		FY2023	
	2Q	2Q累計	2Q	2Q累計
売上高	695	1,331	806	1,529
営業利益	162	303	164	298
その他の損益*	▲4	21	1	▲1
営業利益率 (為替影響調整後)	23.3%	22.7%	20.4% (19.2%)	19.5% (17.9%)
調整後営業利益率	23.9%	21.1%	20.2%	19.6%

*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値／**FY2023より、治療機器事業のその他の治療領域に分類していた婦人科製品について、治療機器事業の泌尿器科に含めています。FY2022の実績も同様に組替え済

FY2023 vs FY2022 (7-9月)
売上高成長率

円ベース
為替込み

為替影響
調整後

■ 消化器科 (処置具)

15%

■ 多くの地域・製品群でプラス成長。特に、症例数が増加している北米で好調に推移。ESD・EMR、サンプリング（生検鉗子等）、ERCP用の製品群の売上が拡大

3%

■ 泌尿器科**

24%

■ 症例数の回復が進み、特に北米と欧州で好調に推移。BPH用の切除用電極と尿路結石用破碎装置「SOLTIVE SuperPulsed Laser System」の拡販が奏功

4%

■ 呼吸器科

9%

■ 症例数が増加している欧州で堅調に推移。また、円安効果が大きい北米も増収に貢献。EBUS-TBNA(超音波気管支鏡ガイド下針生検)で主に使われる処置具が堅調に推移。為替影響調整後では、前期2Qで新型コロナウイルス関連の補助金効果が見られた日本・中国の反動減等を要因に減収

▲7%

■ その他の治療領域

12%

■ エネルギーデバイス「Powerseal」が堅調に推移。円安効果の大きい北米も増収に貢献

▲1%

合計

16%

1%

財政状態計算書

- ☑ 非継続事業の資産、負債を、売却目的で保有する資産、それに直接関連する負債として記載
- ☑ 為替の影響（約1,300億円）により、バランスシート全体が増加

(単位：億円)	2022年3月末	2022年9月末	増減額		2022年3月末	2022年9月末	増減額
流動資産	6,946	7,916	+970	流動負債	3,763	3,597	▲165
棚卸資産	1,674	1,712	+38	社債および借入金	523	444	▲79
売却目的で保有する 資産	47	1,225	+1,178	売却目的で保有する 資産に直接関連する 負債	0	344	+344
非流動資産	6,634	6,945	+312	非流動負債	4,704	4,823	+119
有形固定資産	2,471	2,397	▲74	社債および借入金	3,338	3,454	+115
無形資産・その他	2,518	2,653	+136	資本	5,114	6,441	+1,327
のれん	1,645	1,895	+250	自己資本比率	37.6%	43.3%	+5.7pt
資産 合計	13,580	14,861	+1,281	負債および資本合計	13,580	14,861	+1,281

連結キャッシュフロー計算書

- ☑ FCF： 営業CFは1Qの269億円のマイナスから63億円のプラスとなり（7-9月で332億円プラス）、FCFは改善
- ☑ 財務CF： 配当金支払いや社債の償還による支出などにより、355億円のマイナス

第2四半期累計実績（4-9月）

（単位：億円）

		FY2022	FY2023	増減	
継続事業	非継続事業	税引前利益	684	893	+209
		営業キャッシュフロー	688	63	▲625
		投資キャッシュフロー	▲505	▲157	+348
		フリーキャッシュフロー	184	▲93	▲277
		調整後フリーキャッシュフロー	498	▲48	▲547
		財務キャッシュフロー	▲441	▲355	86
		現金および現金同等物期末残高	1,934	2,974	+1,040

2022年3月期第2四半期（4-9月）の主な特殊要因

営業CF：社外転進支援制度の引当取崩	100億円
投資CF：事業・子会社等の取得	213億円

2023年3月期第2四半期（4-9月）の主な特殊要因

営業CF：科学事業の分社化に伴う税金支出	152億円
投資CF：固定資産（土地）の売却による収入	191億円
投資CF：投資有価証券の取得	35億円
投資CF：科学事業の分社化に伴う投資・一時的な資金負担	49億円

*非継続事業のキャッシュフローはAppendix（P.27）をご覧ください

02

2023年3月期 通期業績見通し

通期業績見通し ①連結業績

☑ 前回見通しから、為替前提を見直し、売上高を上方修正。
 原材料高の影響、費用等を追加で織り込むも、経営戦略で掲げた調整後営業利益率20%超を見込む

- 1 売上高・営業利益： 前期比19%増の8,920億円を見込む。営業利益は、額・率ともに過去最高を見込む
- 2 当期利益*： 科学事業の譲渡に伴う譲渡益を計上し過去最高の3,870億円、EPSは前期比238%増の305円となる見通し

(単位：億円)		2023年3月期 8月9日公表見通し	2023年3月期 最新見通し	増減	前回 見通し比	為替影響調整後 前回見通し比	2022年3月期 実績****	前年比	為替影響調整後 前年比
** 継続事業	売上高	8,740	1 8,920	+180	+2%	0%	7,501	+19%	+4%
	売上総利益 (売上総利益率)	6,055 (69.3%)	6,130 (68.7%)	+75	+1%	▲1%	5,067 (67.5%)	+21%	+3%
	販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)	4,050 (46.3%)	4,135 (46.4%)	+85	+2%	+1%	3,575 (47.7%)	+16%	+5%
	その他の収益および費用など	130	125	-	-	-	▲30	-	-
	営業利益 (営業利益率)	2,135 (24.4%)	1 2,120 (23.8%)	▲15	▲1%	▲4%	1,462 (19.5%)	+45%	+7%
	調整後営業利益 (調整後営業利益率)	2,015 (23.1%)	2,005 (22.5%)	▲10	0%		1,507 (20.1%)	+33%	
	税引前利益 (税引前利益率)	2,075 (23.7%)	2,060 (23.1%)				1,418 (18.9%)		
継続事業からの当期利益	1,585 (18.1%)	1,570 (17.6%)	2023年3月期配当 年間配当16円を予定				1,107 (14.7%)		
*** 非継続事業	非継続事業からの当期利益	135	2,300				53		
継続事業	当期利益	1,720	3,870				1,160		
	親会社の所有者に帰属する当期利益 (親会社の所有者に帰属する当期利益率)	1,720 (16.9%)	2 3,870 (39.2%)				1,157 (13.3%)		
	EPS	135円	305円				90円		

*親会社の所有者に帰属する当期利益。2016年3月期までは日本基準、2017年3月期以降はIFRS
 **「売上高」から「継続事業からの当期利益」までの数値は、継続事業の数値を記載
 ***2023年1月に非継続事業（エビデント）の全株式を譲渡する予定のため、非継続事業の2023年3月期最新見通しは、第3四半期までの数値になります
 ****監査前の数値となります

通期業績見通し ②セグメント別業績

- 1 医療分野： 過去最高の売上高となる見込み
- 2 非継続事業： 譲渡益を計上し、大幅増益を見込む

(単位：億円)		2023年3月期	2023年3月期	増減	前回	為替影響調整後	2022年3月期	前年比	為替影響調整後
		8月9日公表見通し	最新見通し*				実績**		
内視鏡	売上高	5,360	1 5,520	+160	+3%	+1%	4,615	+20%	+5%
	営業利益	1,740	1,735	▲5	0%	▲4%	1,332	+30%	▲2%
治療機器	売上高	3,270	1 3,290	+20	+1%	▲1%	2,756	+19%	+5%
	営業利益	755	750	▲5	▲1%	▲3%	608	+23%	0%
その他	売上高	110	110	-	-	-	130	▲15%	▲18%
	営業損益	▲15	▲15	-	-	-	▲20	+5億円	+6億円
全社・消去	営業損益	▲345	▲350	▲5	▲5億円	▲2億円	▲458	+108億円	+124億円
連結合計	売上高	8,740	8,920	+180	+2%	0%	7,501	+19%	+4%
	営業利益	2,135	2,120	▲15	▲1%	▲4%	1,462	+45%	+7%
(参考) 非継続事業	売上高	1,450	2 950	▲500	▲34%	▲35%	1,187	▲20%	▲30%
	営業利益	175	3,540	+3,365	+1,923%	+1,918%	77	+4,497%	+4,429%

*2023年1月に非継続事業（エビデント）の全株式を譲渡する予定のため、非継続事業の2023年3月期最新見通しは、第3四半期までの数値になります **監査前の数値となります

03

消化器科処置具の成長ストーリー

治療機器事業のターゲットとする疾患に注力し、高い成長を目指す



呼吸器科：肺がんのステージングと診断における差別化されたポートフォリオにより、市場をリードするポジションを獲得



泌尿器科：手技プロセスと臨床結果を改善する革新的なソリューションにより、高い収益性と力強い成長を実現



消化器科処置具：市場での強力なポジションを活かし、医療水準の向上を図り且つ高い収益性を実現



市場ポジション：第2位	強固な基盤	現在の成長を牽引	今後の成長ドライバー
<p>成長を牽引する代表製品群</p> 	<p>ガイドワイヤ</p>  <p>パピロトミーナイフ</p> 	<p>Dual Knife J™ (高周波ナイフ)</p> 	<p>開発中</p>  <p>EndoCuff™ シングルコース胆道鏡*</p>
<p>疾患/症例</p>	<p>ERCP¹</p>	<p>ESD²</p>	<p>大腸内視鏡検査 胆道内視鏡検査</p>

消化器内視鏡におけるNo.1ポジションを活用



治療領域
消化器科処置具

対象疾患・症例

- 膵臓・胆道疾患
- 大腸の疾患
- 胃の疾患
- 止血

差別化された製品を有し、当社が最大の力を発揮できる疾患に注力することで、医療水準の向上に貢献

消化器科処置具は、高い成長が見込める大きな市場で事業を展開



症例



当社の消化器科処置具

3,000億円 - 3,500億円

消化器科処置具市場

5% - 7%

年平均成長率

イメージング

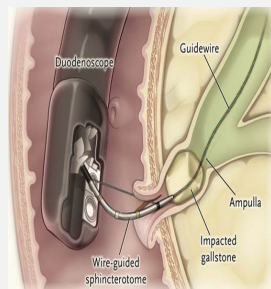
内視鏡+ビデオプロセッサ-

止血

消化管の出血を止める

膵臓・胆道疾患

膵臓、肝臓
胆嚢+胆管
(ERCP)



- 年間~6,000万人の患者が発症¹
- グローバルで1,000億円以上の市場機会

- 解剖学的構造を可視化し、アウトカムを向上させるための新しいイメージング・ソリューションへの需要がますます高まっている

- 一般的な内視鏡室では、止血デバイスの費用が最も大きい
- グローバルで1,000億円以上の市場機会

注力する疾患

消化管

大腸+胃



- 大腸がんは、がん関連の死因2位
- 大腸内視鏡件数は5,000万件/年²



¹ 出典：Epi Database®.Cerner Enviza.wee.epidb.comから入手可能。2021年11月18日にアクセス。米国、EU主要5カ国、日本、中国の2020年のデータ

² 自社調べ。グローバル：米国、カナダ、ドイツ、フランス、イタリア、スペイン、英国、ポーランド、日本、中国、韓国、オーストラリア、インド、ロシア/2019年時点

消化器科処置具は、各市場で強力なポジションを確立



症例



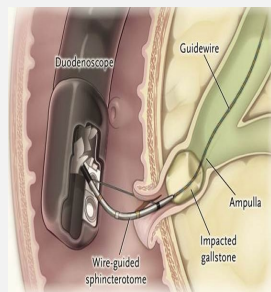
当社の消化器科処置具

No.2 グローバル
シェア

~30% 治療機器事業の売
上高に占める割合

膵臓・胆道疾患

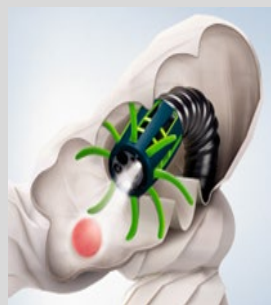
膵臓、肝臓
胆嚢+胆管
(ERCP)



- ガイドワイヤと乳頭用切開デバイスで世界的なリーダー
- 高度に差別化された豊富な製品ポートフォリオ。FNA¹や FNB²で使用される生検針、バルーンダイレータ、バスケット鉗子等

消化管

大腸+胃



- EndoCuffTM*の使用より、腺腫発見率が向上³
- ESD⁴の手技は消化器系疾患においてNo.1の成長を実現
- ナイフ、鉗子、局注針、トラクションデバイス等、ESD製品の幅広いラインアップ

イメージング

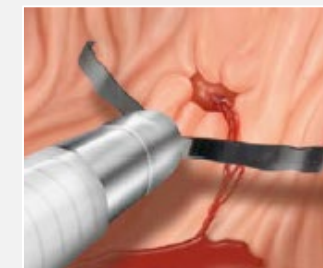
内視鏡+ビデオプロセッサ

止血

消化管の出血を止める

- 消化器内視鏡におけるグローバルマーケットリーダー
- シングルユース胆道鏡は開発中

- 止血デバイスの幅広いポートフォリオ
- リローダブルクリップとプリロードクリップの両方を提供する唯一のサプライヤー



1 FNA = fine needle aspiration(穿刺吸引法) 2 FNB = fine needle biopsy(穿刺生検術)

3 Floer M, Biecker E, Fitzlaff R, et al. Higher Adenoma Detection Rates with Endocuff-Assisted Colonoscopy — A Randomized Controlled Multicenter Trial. PLoS ONE. 2014;9(12):e114267

4 Endoscopic Submucosal Dissection: 内視鏡的粘膜下層剥離術 *注: 医薬品医療機器等法未承認品。一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております

止血デバイスのレガシーとイノベーション



強力なレガシー

最近のイノベーション



QuickClip™
2004年



Coagrasper™
高周波止血鉗子
2004年



PolyLoop™
結紮装置
2004年



QuickClip Pro™
プリロードクリップ
2013年



Argon plasma
凝固プローブ
2019年



EZ Clip™
リローダブルクリップ
米国で発売
2020年



SutuArt™
縫合
日本、欧州で発売
2022年



EndoClot™*
2022年



EndoClot™*

製品名	EndoClot™*
カテゴリ	パウダー状止血剤
臨床適用 ¹	1. 小出血を止める 2. 大出血やびまん性出血に対する従来技術（クリップ等）の補助療法
USAにおける保険償還	2023年12月までCMS ² TPT ³ の支払い対象となる

¹ 臨床適用の詳細については、製品の取扱説明書を参照してください

² CMS = Centers for Medicare and Medicaid services

³ TPT = Transitional Pass Through

*注：医薬品医療機器等法未承認品。一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております

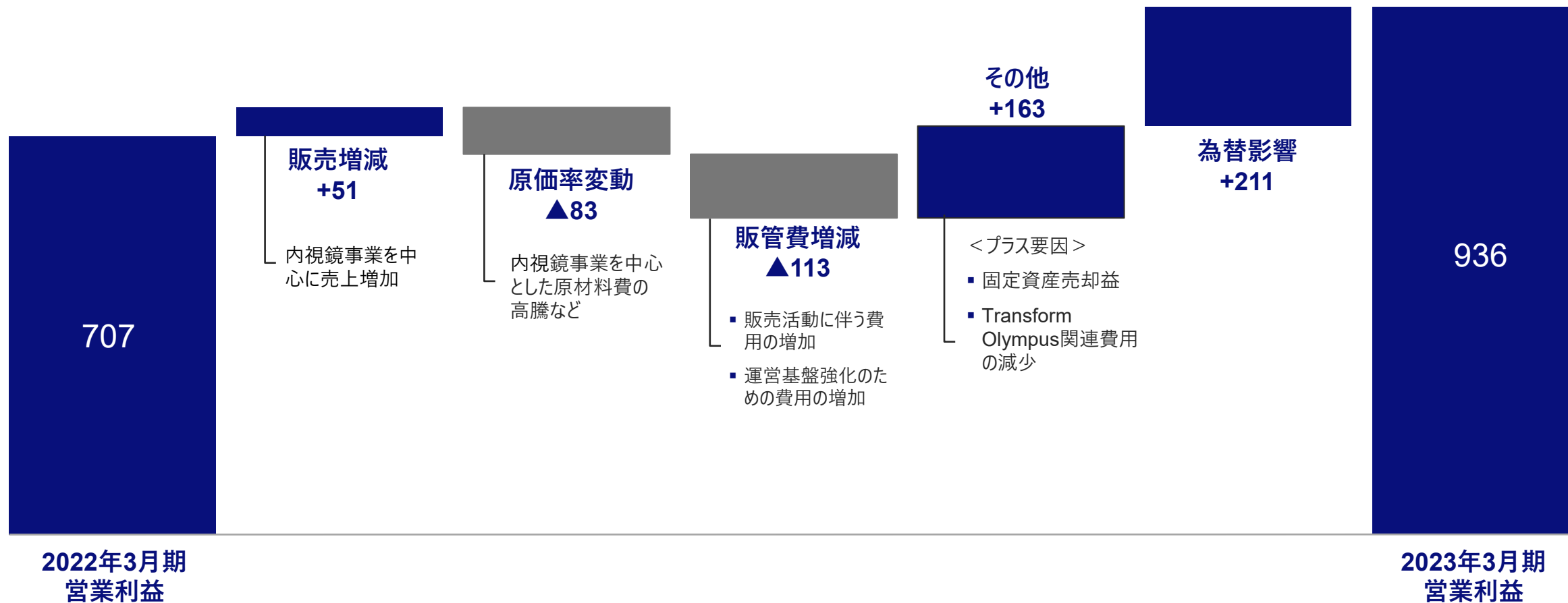
OLYMPUS

A thick, yellow, brushstroke-style underline that tapers at both ends, positioned directly beneath the word "OLYMPUS".

参考資料

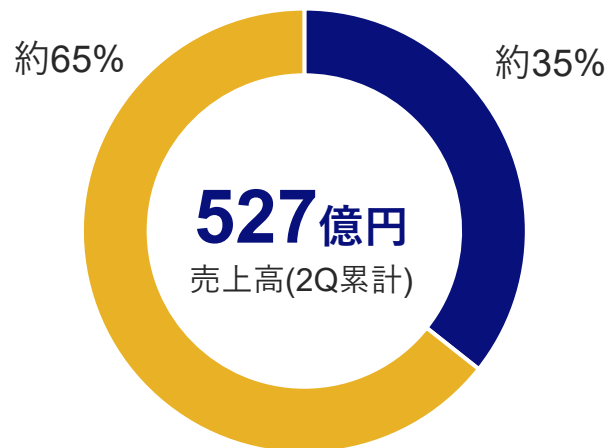
2023年3月期 第2四半期実績 連結営業利益増減要因

第2四半期累計実績（4-9月）



(単位：億円) *その他には、決算短信に記載の「持分法による投資損益」、「その他収益」、「その他費用」が含まれています

2023年3月期 第2四半期実績 非継続事業 (科学事業)



(単位: 億円)	FY2022		FY2023	
	2Q	2Q累計	2Q	2Q累計
売上高	282	530	309	527
営業利益	39	56	▲11	▲49
その他の損益*	▲6	▲8	▲26	▲49
営業利益率 (為替影響調整後)	13.8%	10.6%	-	-
調整後営業利益率	15.9%	12.0%	4.8%	0.1%

*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

FY2023 vs FY2022 (7-9月)
売上高成長率

円ベース
為替込み

為替影響
調整後

■ ライフサイエンス	▲4%	<ul style="list-style-type: none"> 研究所、大学での予算執行が堅調に推移しているものの、半導体等の部品不足による納期の長期化の影響等により、減収 	▲17%
■ 産業	19%	<ul style="list-style-type: none"> 半導体等の部品不足による納期の長期化の影響はあるものの、顧客の設備投資状況は引き続き改善傾向が続いていることや1Qに発生した上海ロックダウンの解除により出荷が増加している中国の好調な推移等により、増収 	2%
合計	10%		▲6%

非継続事業のキャッシュフロー 第2四半期実績 (4-9月)

	FY2022	FY2023	増減
営業キャッシュフロー	51	▲110	▲161
投資キャッシュフロー	▲29	▲60	▲31
財務キャッシュフロー	▲4	▲10	▲7

2023年3月期 第2四半期実績 セグメント別概況

第2四半期累計実績（4-9月）

(単位：億円)		2022年3月期	2023年3月期	前年同期比	為替影響調整後
内視鏡	売上高	2,206	2,585	+17%	+3%
	営業利益	616	689	+12%	▲15%
治療機器	売上高	1,331	1,529	+15%	+1%
	営業利益	303	298	▲2%	▲20%
その他	売上高	64	57	▲12%	▲14%
	営業損益	▲11	▲8	+3億円	+4億円
全社・消去	営業損益	▲201	▲43	+158億円	+167億円
連結合計	売上高	3,601	4,171	+16%	+2%
	営業利益	707	936	+32%	+3%
(参考) 非継続事業	売上高	530	527	0%	▲13%
	営業損益	56	▲49	▲105億円	▲121億円

第2四半期実績（7-9月）

		2022年3月期	2023年3月期	前年同期比	為替影響調整後
	売上高	1,205	1,416	+17%	+1%
	営業利益	390	441	+13%	▲14%
	売上高	695	806	+16%	+1%
	営業利益	162	164	+1%	▲17%
	売上高	33	26	▲21%	▲23%
	営業損益	▲6	▲5	+1億円	+1億円
	営業損益	▲99	▲109	▲11億円	▲6億円
	売上高	1,933	2,248	+16%	+1%
	営業利益	447	491	+10%	▲20%
	売上高	282	309	+10%	▲6%
	営業損益	39	▲11	▲50億円	▲63億円

連結キャッシュフロー 増減要因

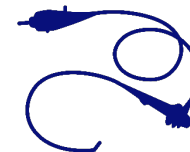
FCF ▲93 (調整後FCF* ▲48)



*2023年3月期第2四半期（4-9月）の主な特殊要因

営業CF：科学事業の分社化に伴う税金支出	152億円
投資CF：固定資産（土地）の売却による収入	191億円
投資CF：投資有価証券の取得	35億円
投資CF：科学事業の分社化に伴う投資・一時的な資金負担	49億円

プロダクトパイプライン：内視鏡事業 (2022年11月11日時点)



2023年3月期の内視鏡事業における重点施策

- 欧州、日本、アジア一部地域において、消化器内視鏡システム「EVIS X1」を拡販
- 米国は2023年3月期に「EVIS X1」を導入することを目指し、中国は導入準備を進める
- 欧州、日本で次世代超音波内視鏡システムの導入を準備
- 新興国の市場ポテンシャルを最大化し、中国では売上を拡大
- 外科内視鏡分野においては、次世代外科内視鏡システムの導入を準備し、収益性を改善

現在の主力製品

消化器内視鏡

- EVIS X1 (欧州、日本、アジア・オセアニア)
- EVIS EXERA III (米国、欧州)
- EVIS LUCERA ELITE (中国)

外科内視鏡

- VISERA ELITE II 2D/3D/IR機能 (欧州、日本)
- VISERA ELITE II 2D (米国)
- VISERA ELITE (中国)
- VISERA 4K UHD (米国、欧州、日本、中国)

直近の新製品 / 発売予定の製品

消化器内視鏡

- EVIS X1 (米国)
- EU-ME3 (欧州、日本、アジア・オセアニア)

外科内視鏡

- VISERA ELITE II 3D/IR機能 (米国)
- VISERA ELITE II 2D/3D/IR機能 (中国)
- VISERA ELITE III (欧州、日本)

中長期のパイプライン

消化器内視鏡

- EVIS X1 (中国)
- シングルユース十二指腸内視鏡
- 内視鏡CADプラットフォーム ENDO-AID (日本、米国)

外科内視鏡

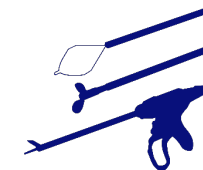
- VISERA ELITE III (米国)

20%

2023年3月期 売上高成長率¹

1 円ベースの成長率

プロダクトパイプライン：治療機器事業 (2022年11月11日時点)



2023年3月期の治療機器事業における重点施策

消化器科

- ERCP、ESD、メタルステント、止血デバイス など主要カテゴリにおいて、臨床的に差別化された製品ポートフォリオを拡充

泌尿器科

- 主力製品の経尿道的切除術をサポートするTURisシステムの売上および利益の拡大に加えて、iTindの市場開拓を通じて前立腺肥大の分野で業界をリード
- SOLTIVE SuperPulsed Laser System により、結石破碎治療における成長を拡大

呼吸器科

- 気管支鏡における次世代プラットフォーム「EVIS X1」を米国で発売
- Veran Medical technologies社の統合による肺がん分野におけるソリューション拡大を通じて成長を加速

現在の主力製品

消化器科

- Visiglide
- ESD Knife
- EZ Clip / QuickClip Pro
- EndoJaw

泌尿器科

- 前立腺肥大症治療用切除デバイス
- ツリウムファイバーレーザー装置 SOLTIVE SuperPulsed Laser System (米国、欧州)

呼吸器科

- 気管支鏡、超音波気管支鏡
- ViziShot
- スパイレーションバルブシステム

直近の新製品 / 発売予定の製品

消化器科

- 3製品 (米国)
- 5製品 (欧州)
- 5製品 (日本)

泌尿器科

- 前立腺肥大症低侵襲治療デバイス iTind (米国、欧州)

呼吸器科

- 電磁ナビゲーションシステム (米国)
- シングルユース気管支鏡 (米国)
- 超音波気管支鏡 (米国)
- EVIS X1 気管支鏡 (米国)

中長期のパイプライン

消化器科

- シングルユース胆道鏡

泌尿器科

- シングルユース尿管鏡

呼吸器科

- 電磁ナビゲーションシステム (欧州)
- シングルユース気管支鏡

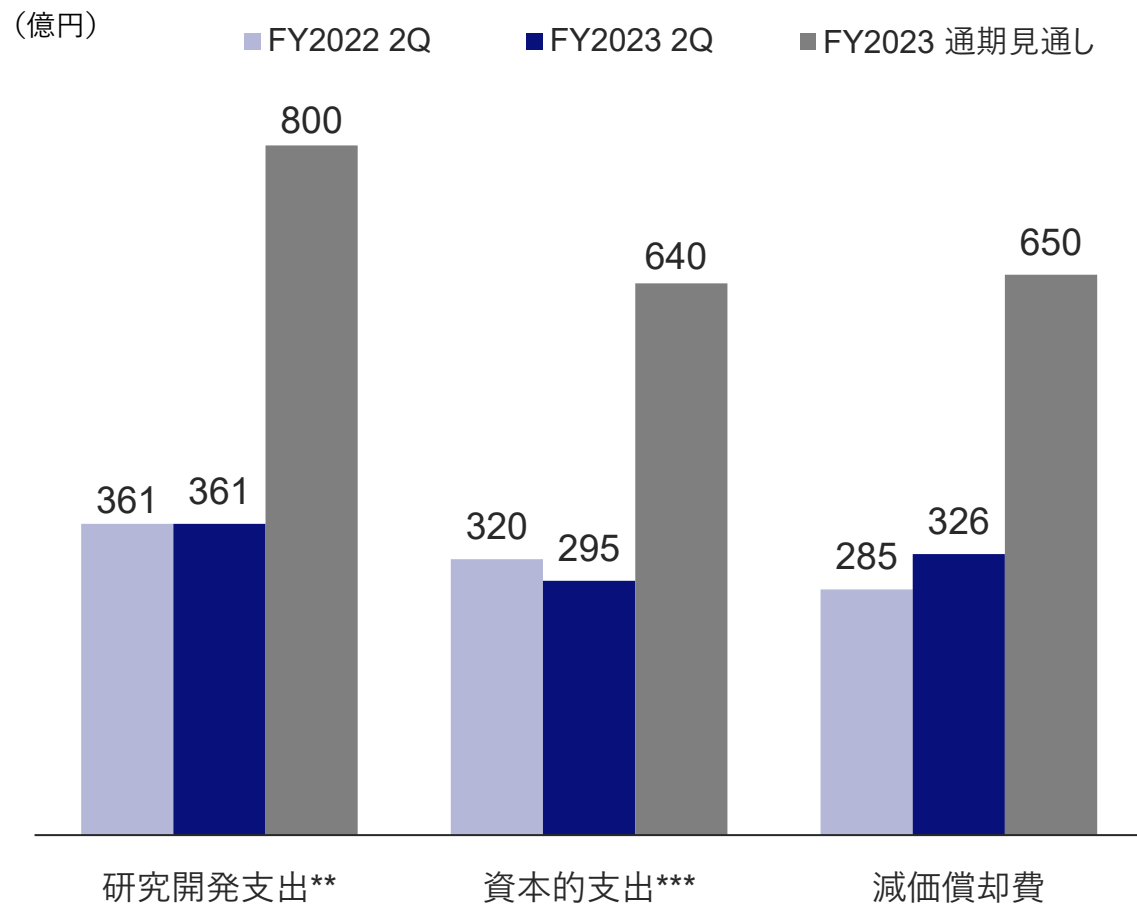
*注：医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております
1 円ベースの成長率

19%

2023年3月期 売上高成長率¹

投資など

第2四半期累計実績（4-9月）および通期見通し*



(単位：億円)	FY2022	FY2023
研究開発支出** (a)	361	361
開発費資産化 (b)	65	56
損益計算書上における 研究開発費 (a-b)	296	305

(単位：億円)	FY2022	FY2023
償却費	33	39
	2022年6月末	2022年9月末
開発資産残高	518	538

*2023年3月期第2四半期連結会計期間より、科学事業を非継続事業に分類しています。これに伴い、当スライドの研究開発支出、資本的支出、減価償却費は非継続事業を除いた継続事業の金額を表示しています。前第2四半期連結累計期間についても同様の形で再表示しています

研究開発支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています / *資本的支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています。また、2021年3月期よりIFRS第16号「リース」を適用し、資本的支出には下記使用権資産が含まれています。(FY2022 2Q：58億円、FY2023 2Q：43億円、FY2023 見通し：70億円)

為替レート及び為替感応度

通期見通しの前提となる為替レートは、直近1ヵ月間の平均値を原則としている

為替

(単位：円)	FY2022 1Q	FY2022 2Q	FY2023 1Q	FY2023 2Q	前回見通し	FY2023 最新見通し
円／USドル	109.49	110.11	129.57	138.37	134	140
円／Euro	131.96	129.84	138.12	139.34	140	139
円／CNY	16.96	17.02	19.58	20.19	20	20

為替感応度（年間）

(単位：億円)	売上高	営業利益
ドル（1円あたり）	25	11
1ユーロ（1円あたり）	16	7
人民元（1円あたり）	60	39

*上表の数値は継続事業の金額を表示しています